



梅雨に入り、栗山川の紫陽花がきれいに咲く季節になりました。教室の窓から、すっきりしない梅雨空を眺めることも増えているのではないのでしょうか。そんな日は、図書室でゆっくりとした時間を過ごしてみたいはいかがですか？ 読書をする人はもちろん、読書をしない人も、遊びに来てください。

6月18日 おにぎりの日

1987年（昭和62年）に石川県鹿西町の杉谷チャノバタケ遺跡の竪穴式住居跡から、日本最古の「おにぎりの化石」が発見されたことから制定されました。

🍱『本日のメニューは。』 行成薫：著

「おむすび狂詩曲（ラブソディ）」という話は、SNS上で、いいね！をもらうために、見映えだけいいご飯を作り続ける母に頭を悩ませている女子高生と、家計の助けになればと始めたおむすび屋さんが、逆に家庭での時間を奪ってしまった女店主が主人公です。温かくて美味しいおむすびが、人と人とを結んでくれます。

🍱『生きるぼくら』 原田マハ：著

24歳で引きこもりだった麻生人生は、突然母がいなくなり、小さい頃に行ったことのあるマーサばあちゃんのいる夢科へ行きます。そこには昔とは違うマーサばあちゃんと、もう一人の孫だというつぼみがありました。米作りの手伝いを始めた人生は、マーサばあちゃんのおにぎりを食べて、前向きに生きられるようになります。

🍱『おにぎらずアイデア帳』 金丸絵里加：著

にぎらずにはさむ（包む）という方法で、サンドイッチのような華やかさがあり、お弁当にも最適な、“おにぎらず”。しかも、はさむ具材も作り方にもルールは一切ありません。食材のジャンル別にレシピを紹介しているので、それぞれのジャンルのレシピから自分好みにアレンジしてみるのもおすすめです。



くにきだどっぽ

国木田独歩（6月生まれ、銚子出身）

～今年是一年間、千葉ゆかりの作家・作品を紹介します～



詩人。小説家。編集者としては、今も発行されている『婦人画報』の創刊者でもある。代表作は、武蔵野の風景などを詩的に描写した随筆『武蔵野』などがある。

📖『武蔵野・春の鳥』日本の文学 6

『武蔵野』は、独歩が武蔵野を散歩したときに感じた自然の美しさや、そこにある小さな物語を見つける楽しさを書いた作品です。

職業調べ *気象予報士*



『気象予報士・予報官になるには』金子大輔:著

合格率が4～5%という難しい試験ですが、年齢や学歴、性別の制限はないので皆さんも挑戦してみてもいいのでは？

『雲のカタログ』村井昭夫・鶴山義晃:文と写真

一番身近な自然である「雲」ですが、一般的な詳しい資料がないことから、気象予報士の二人が出した雲の分類図鑑です。

この本、読んでみませんか？（図書委員長 美風さんのおすすめ）

『本と鍵の季節』 米澤穂信：著



高校二年生の堀川次郎と松倉詩門は図書委員で、利用者のほとんどいない放課後、図書室の当番をしています。ある日、図書委員を引退した先輩から「亡くなった祖父が遺した金庫の鍵の番号を、探り当ててほしい。」と言われます。

図書委員の二人が日常のいろいろな謎に挑む青春ミステリーです。二人の会話の内容や、文章の書き方が面白いので、ページ数が多くてもスラスラ読めます！ぜひ、読んでみてください。